

根木山レンジャーの巻 琵琶湖河川レンジャー レポート

**住民連携による
野洲川のヨシ帯のモニタリング
ドローンを使った植生調査の試み**

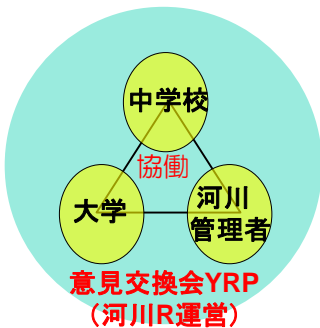
住民連携らしい

モニタリング手法

平成24年度にはじまった「野洲川河口部ヨシ帯再生」では、住民連携によるモニタリングが、地域の中学校、大学、河川管理者により続けられています。

琵琶湖河川レンジャーでは、この住民連携によるヨシ帯のモニタリングに、協働する3者の間のつなぎ・調整役として関わってきました。

中学生にとって、ヨシ帯は、中にはいると自分よりも背の高いヨシが生い茂り、足元も水辺のため安定していないため、モニタリングの作業は簡単なことではありません。また、プロが行う調査手法が、中学生には適さないことがあるということもわかってきました。



自分たちがもっている知識とツールを駆使して、いかに面積と植生、魚類の調査ができるかが大きな課題となりました。5年間にわたって、中学生、河川管理者、大学や専門家というスキルやスタイルの異なる者が、「住民が主体となって継続できるモニタリング手法」を試行錯誤してきましたが、特に、河川レンジャーがコーディネートする「意見交換会YRP」の回数を重ねることで、お互いの違いを把握しあい、その上で、共にできることを、頭をつきあわせて話し合う関係ができてきました。

ドローンで植生調査

今年度は、主に、ヨシ帯の質をはかる植生調査手法を考案



し、試行しました。特徴的だったのが、中学校で所持しているドローンで、ヨシ帯の航空写真を撮影し、植生を読み取るという点です。中学生にとって関心の高いテクノロジーを活用することで、モチベーションが高まり、事前の意見交換会でも、琵琶湖河川事務所の職員や、滋賀県立大学の教員とともに、熱の入った打合せが行われました。調査当日も天候に恵まれ、順調に実施することができました。また、調査の結果を受けて、今年2月、「淡海の川づくりフォーラム」にて活動成果発表を行いました。「応援の花咲いた賞」を受賞しました。ある生徒からは「数学が好きで自主的に勉強しているが、こうした調査を通して、数学の知識を社会の中で実際に活用できることがわかった」というコメントがありました。

河川レンジャー
活動支援室

2017年3月発行

VOL. 30



河川レンジャー活動紹介・レンジャー名・“活動テーマ”・進行している活動

北村レンジャー

“川と共存してきた
「地域の記憶掘り起こし」”

「地域の記憶掘り起こし」をテーマに地域と川との関わりを記録し、伝えていく活動をしています。

川と地域がどのように関わってきたのかを残していくために、継続して昔の風景写真の情報を集めたり、ヒアリングをしています。

渡辺レンジャー

“瀬田川の命の豊かさを感じる
ことのできる社会環境づくり”

琵琶湖や河川の生き物に親しむことができる場を住民の方々と共に作り上げるため活動してきました。

今年度で河川レンジャーを退任させていただきます。引き続き生き物に関わる活動は続けていくのでどこかで出会った際にはぜひよろしくお願い致します。

眞田レンジャー

“ラポール(心の架け橋)で創る
みんなが夢中になれる瀬田川”

私はボート部員として瀬田川を利用している毎日瀬田川に寄り添っていることを生かしたいと思い、河川レンジャーとして、瀬田川利用者が相互理解の中で夢中なものに向き合える瀬田川になるように活動していきたいと思っています。

活動拠点 (問い合わせ先)

水のめぐみ館ウオーターステーション琵琶内 河川レンジャー活動支援室
〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-2-2 TEL077-536-3520 FAX077-536-3530
E-mail: r-manager@water-station.jp URL: http://www.water-station.jp/ranger
FB: http://www.facebook.com/BiwoKoRanger

琵琶湖河川レンジャー募集中!!

活動に関心がある方、ご紹介いただける方、
河川レンジャー活動支援室までお知らせ下さい!